年間授業計画　新様式例

高等学校 令和６年度（１学年用） 教科　芸術　　科目 書道Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　3 組

教科担当者：（1　組：　喜入　（　2組：喜入　（3組：喜入　（　組：　）（　組：　）（　組：　）

使用教科書：（ 書Ⅰ　光村図書　）

教科　　の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。	書の美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	主体的に幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 漢仮	表現 漢	表現 仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。	書道で学習すること・書写から書道へ	○	○	○	○	書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。	○	○	○	2
	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 ・漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。・漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもつ	漢字の変遷と様々な書体		○		○	漢字には五つの書体があることを理解する。 それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する	○	○	○	4
	楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。臨書作品の制作	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑。		○		○	楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 構成を考えながら臨書作品の創作ができる。	○	○	○	10
		牛橛造像記 巻末折込龍門二十品 古典の臨書		○		○		○	○	○	8
2学期	行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 仮名の漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。	文字の造形を学ぶ【行書】 蘭亭序 蘭亭序とは 受け継がれてきた蘭亭序 巻末折込「蘭亭序」 ［コラム］印でわかる古典の真価 争坐位文稿		○		○	行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。　仮名の線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	○	○	○	20
		風信帖 三筆・三跡の書 仮名の成立と種類			○	○		○	○	○	8
3学期	仮名の字源の理解と古典に基づいた用筆を理解する	文字の造形を学ぶ仮名 仮名の筆使い　平仮名　変体仮名 蓬萊切			○	○	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。　主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。②書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ③古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風、紙面構成、用具・用材などの観点で作品の構想を練る。 ④試作を重ね、表現を工夫し、落款を入れて作品を仕上げる。 ⑤作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	漢字仮名交じりの書とは 心に響く言葉を書く 創作する 好きな言葉を書こう あなたは、どの書が好き？ 表現の幅を広げよう	○			○	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。　主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
											合計 70

年間授業計画　新様式

高等学校　令和6年度（１学年用）　教科　　芸術　　科目　美術Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　美術Ⅰ　　単位数：2　　単位　2

対象学年組：第　1 学年　1 組

教科担当者：（1組：宮西まど香　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）（　組：　　）

使用教科書：（ 日本文教出版社　高校美術　　）

教科　芸術

【 知　識　及　び　技　能 】　芸術に関するそれぞれの特質を理解し意図に基づいた表現をするための技能の習得

【思考力、判断力、表現力等】　創造的な表現の工夫や芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】　生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく豊かな情操を培う

科目　美術Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
芸術に関するそれぞれの特質を理解し意図に基づいた表現をするための技能の習得	創造的な表現の工夫や芸術の良さ美しさを味わう	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく豊かな情操を培う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			絵・彫	デ	映						
1学期	寄木制作 【知識及び技能】 ・日本の伝統工芸品を知り木の持つ可塑性と可能性を拡げる	【指導事項】 ・木の持つ性質 ・安全かつ正しい道具の扱い方 ・実用性のあるデザインの工夫 ・独創的な立体物の形成 ・木の特徴を生かした加工の仕方	○	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	4
	【思考力、判断力、表現力等】 ・木の種類を知り曲線美を追求しオリジナリティー溢れる表現の追求をする	・物の組み立て方と物理的な計画性 ・工具の種類	○	○			・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	8
	【学びに向かう力、人間性等】 ・完成させるための計画性や工程工夫・粘り強さ等を養う ・日本の伝統工芸を心豊かに愛でる情操と心を育てる。	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・寄木木材 ・ワークシート ・木工用ボンド ・紙やすり ・棒やすり	○	○			・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	8
		・電動糸鋸 ・新聞紙 ・Cクランプ ・木工バイス ・刷毛 ・木工用ニス	○	○		○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・木の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	4
2学期	油彩画制作 【知識及び技能】 ・日本と世界の油彩画の歴史と多様な作品を知り技法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 ・油彩画の材料と使用方法についての習得	【指導事項】 ・水彩と油彩の違いについて ・油彩の特徴 ・道具の使用方法と片付け方法 ・油彩の技法の可能性 ・油彩の歴史	○		○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・点描画の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の経過と完成度等　　総合的な評価	○	○	○	22
	・様々な技法の種類と扱い方の習得による独創性の確立 【学びに向かう力、人間性等】 ・画面上での自己欲求と自己追求	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・油絵具セット ・キャンバス ・イーゼル ・新聞紙 ・モチーフ	○			○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・点描画の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の経過と完成度等　　総合的な評価	○	○	○	6
3学期	点描 【知識及び技能】 ・明度の違いで立体が表現できる事を知り、実践で技能を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 ・点の集合で明度が変化する事を利用した素材の厳選	【指導事項】 ・光と影について ・明暗と濃淡の表現方法について ・構図の工夫 ・ペンの種類での適材適所の描き分け	○	○	○	○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・明暗・濃淡表現の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	14
	【学びに向かう力、人間性等】 ・根気よく諦めずに完成させ達成感を味わう ・計画性を持ち継続する力を養う	【教材】 ・教科書 ・タブレット ・画用紙 ・４B鉛筆 ・ボールペン(細・中・太) ・マグネット	○	○		○	・出席状況 ・授業態度 ・提出物 ・明暗・濃淡表現の特性の理解と実践 ・作品の独創性 ・作品の完成度等　　総合的な評価	○	○	○	4 合計 70

年間授業計画　新様式例

高等学校 令和6年度（１学年用） 教科　芸術　科目　音楽Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：音楽Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　3 組

教科担当者：（ 1組：木下 ）（２組：木下 ）（３組：木下 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ 教育出版社　音楽Ⅰ　Tutti＋（トゥッティプラス） ）

教科　芸術　の目標：芸術の幅広い活動を通して，各科目における見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

科目　音楽Ⅰ　の目標：音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A表現　歌唱　混声合唱 【知識及び技能】 ｿﾙﾌｪｰｼﾞｭの基礎 【思考力、判断力、表現力等】 楽典を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙによる主体的な活動	・親しみやすく発声に適した曲を使用し、曲想を考えた演奏を目指す。 ・グループ練習を中心とした主体的活動を行う。 ・模範の鑑賞を通し、より良い演奏のイメージを持つ	○			○	【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 知識・技能を生かしイメージをもって歌唱表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙによる主体的な活動ができる	○	○	○	7
	A表現　器楽　ギター基礎 【知識及び技能】 ギター構造・演奏の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 知識や技能を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 ﾍﾟｱﾜｰｸによる主体的な活動	・ギターの構造や基本奏法を知り、演奏する。 ・コードの基礎知識を学び、演奏に生かす。		○			【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 ギターの知識・技能を生かしイメージをもって器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 ﾍﾟｱﾜｰｸによる主体的な活動ができる	○	○	○	5
	B鑑賞　管弦楽曲の鑑賞 【知識及び技能】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する 【思考力、判断力、表現力等】 楽器・ﾘｽﾞﾑの特徴を生かした演奏 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる主体的な活動	・オーケストラの様々な楽器の音色や響き，またボレロのリズムの繰り返しに乗せた二つの旋律が様々な楽器やその組み合わせによって展開されながらもたらす表現上の効果を理解し，そのよさや美しさを自ら味わって聴く。				○	【知識及び技能】 曲想や表現上の効果と、音楽の構成とのかかわりについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，構成を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている 【学びに向かう力、人間性等】 オーケストラの様々な楽器の音色や響き，またボレロのリズムに乗せた二つの旋律が展開されながらもたらす表現上の効果に関心をもち，主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	A表現　創作　変奏曲の創作 【知識及び技能】 反復、変化、対照などの手法を活用して変奏曲を創る 【思考力、判断力、表現力等】 創作に関わる知識や技能を生かして創意工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 創作活動を楽しみ、主体的に活動する	・「ふるさと」の編曲を行い、変奏曲を創作する。 ・タイトルからイメージを広げ創作する ・創作活動にあたり、「きらきら星変奏曲」を鑑賞する			○	○	【知識及び技能】 変奏曲の基本的なルールを学び、創作に生かす。 【思考力、判断力、表現力等】 創作の知識技能を生かし、創意工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 前向きに創作活動ができる	○	○	○	6
2学期	A表現　器楽　ギター弾き語り 【知識及び技能】 コードを使用した弾き語り 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした器楽表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協同的な活動	・簡単なコード練習を行い、「ｽﾀﾝﾄﾞﾊﾞｲﾐｰ」の弾き語りで演奏する。 ・グループでテンポを設定し、聴きあいながら演奏する	○	○			【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 ギターの知識・技能を生かし曲のイメージを大切に器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協同的な活動ができる	○	○	○	9
	A表現　歌唱　イタリア歌曲独唱 【知識及び技能】 ｿﾙﾌｪｰｼﾞｭ・イタリア語の基礎 【思考力、判断力、表現力等】 ｲﾀﾘｱ語を生かした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 独唱への主体的な活動	・イタリア語の特徴を生かした表現の工夫を行う。 ・独唱ならではの表現の工夫を考え、演奏する。	○			○	【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 ｲﾀﾘｱ歌曲の知識を生かしイメージをもって歌唱表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 独唱への主体的な活動ができる	○	○	○	9
	A表現　歌唱及び器楽（授業内コンサート） 【知識及び技能】 演目楽器決め含め自己プロデュースする 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協同的な活動	・アンサンブルコンサートに向け、練習計画を立てる。 ・演目に合った、楽器編成や表現を工夫し、演奏を行う。		○			【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 楽曲分析を行い、その知識を生かし曲のイメージを大切に表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協同的な活動ができる	○	○	○	10
3学期	器楽　リコーダー四重奏 【知識及び技能】 ｸﾞﾙｰﾌﾟｱﾝｻﾝﾌﾞﾙの魅力を味わう 【思考力、判断力、表現力等】 生き生きとした器楽表現の工夫 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる協働的な活動	・拍、リズムを感じながら、メンバーを意識しながら演奏を行う。 ・流れを止めず、曲想に合った表現の工夫を行う。		○			【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 リコーダーの知識・技能を生かしイメージをもって器楽表現の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループで協働して、主体的な表現活動ができる	○	○	○	6
	歌唱　ア・カペラ混声合唱 【知識及び技能】 ｿﾙﾌｪｰｼﾞｭの基礎 【思考力、判断力、表現力等】 歌唱表現の知識技能を表現の工夫に生かす 【学びに向かう力、人間性等】 グループによる主体的な活動	・ハーモニーが美しく発声に適した曲を使用し、曲想を考えた演奏を目指す。 ・グループ練習を中心とした主体的活動を行う。 ・模範の鑑賞をとおしより良い演奏のイメージを持つ		○			【知識及び技能】 曲にふさわしい発声・発音・身体の使い方を考え表現できる 【思考力、判断力、表現力等】 知識を生かしイメージをもって歌唱表現　の工夫ができる 【学びに向かう力、人間性等】	○	○	○	6
	創作　循環ｺｰﾄﾞを使用した創作 【知識及び技能】 反復、変化、対照などの手法を活用して創作する 【思考力、判断力、表現力等】 創作に関わる知識や技能を生かして創意工夫する 【学びに向かう力、人間性等】 創作活動を楽しみ、主体的に活動する	・カノンのコード進行を使用して、自分のイメージする曲を創作する ・創作した曲の演奏を行う。			○	○	【知識及び技能】 コード進行の基本的なルールを学び、創作に生かす。 【思考力、判断力、表現力等】 創作の知識技能を生かし、創意工夫できる 【学びに向かう力、人間性等】 前向きに創作活動ができる	○	○	○	6 合計 70